

第5学年 児童の思いや意図が膨らむ表現活動を目指して

名西郡 高川原小学校 清 重 智 則

1 はじめに

研究を始めるにあたり本校の5年生に音楽の授業についてアンケートをとった。そこからは、友だちと声を合わせ歌ったり、楽譜通りに間違わずに演奏したりすることは得意で、向上心をもって活動に取り組めるが、演奏を聴いて感受したり味わったりする活動や自分の考えを他人に伝える活動には自信がなく、関心が薄い児童が多いということが分かった。

そこで本研究では、児童が主体的に楽曲を聴き取ったり感じ取ったりし、感受性を育む。さらに仲間と協働することで深い学びへの課程を充実させ、思いや意図を交流させつつ曲の特徴にふさわしい工夫のある表現活動に取り組むようにする。そのためには、児童が楽曲と向き合う環境や、楽曲に対する思いを伝え合う場をどのように工夫するか考えながら研究を進めていくことにする。

2 研究内容

これまで経験してきた鑑賞の活動以外にも身体表現や、ICTを使った活動を取り入れることで、より主体的に楽曲と関わっていくことができると考える。また、仲間と協働する活動では、掲示物を活用することで思いの交流が捗るようにしていく。

3 研究の実際

- (1) 常時活動で行う身体表現活動について
 - ① 指揮者になろう
 - ② 鏡合わせゲーム
- (2) 主体的に楽曲のよさや面白さを感じ取るための工夫について
 - ① ICT機器を使った鑑賞活動
 - ② 総譜から見つける鑑賞活動
- (3) 仲間と共感し合い音楽に対する思いを伝え合う活動について
 - ① パートの中で思いを膨らませる活動
 - ② 学級全体の思いを交流させる活動 ー威風堂々の木を育てるー

4 研究の成果と考察

鑑賞・表現どちらの活動においても児童が盛んに言葉を交わしながら思いや意図を交流させ曲の特徴にふさわしい表現を工夫することができた。合奏したものを録音して聴き納得のいくもののができたと喜んでいて、校内放送で発表でき、より表現活動に意欲的になれる児童が増えた。

5 今後の課題

歌唱における表現活動においても今回の実践をいかしていきたい。児童が主体的に歌曲を聴き、思いや意図を言葉や音楽で伝え合いながら、表現活動を楽しめる授業を創造していく。